



10～1月の管理ポイント



土壌が乾燥しやすい季節です。土壌の乾燥が長期間続くと撥水物質が増え、ドライ症状が発生してしまいます。冬場は代謝や生理反応が低下しているので、ダメージが見えにくく見逃されがちです。春になってダメージが目立つようになってから対処しても回復は困難ですので、冬場も水管理に気を配り続けましょう。

高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少水量散布でも高い効果が得られます。真夏にも安心して使用できる安全性の高い製品です。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でもご使用いただけます。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上

ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上

冬季の乾燥対策

液肥とのタンクミックスに

グリーンシナジー

近年は非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、実際はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題視されています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることによって利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

張芝した箇所の乾燥対策には、スポット処理しやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

使用量：1～2ml/m²/月 散布水量：100ml～1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

芝生の耐乾性

耐寒性を高めましょう

プランツコート

プランツコートで茎葉部をコーティングすることで、冬の乾燥害や霜によるダメージを軽減することが出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

散布薬量：1ml/m² 散布水量：100～200ml/m²

冬季のサッチの除去
土壌微生物の健全化

サッチ・マネージャーW

ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン. 0.25～0.5g/m² 散布水量0.2～0.5ℓ/m²

病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業時の保護殺菌にお勧めです。

使用量：バントグラス_希釈倍率300～500倍 1～2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1～2ℓ散布/m²

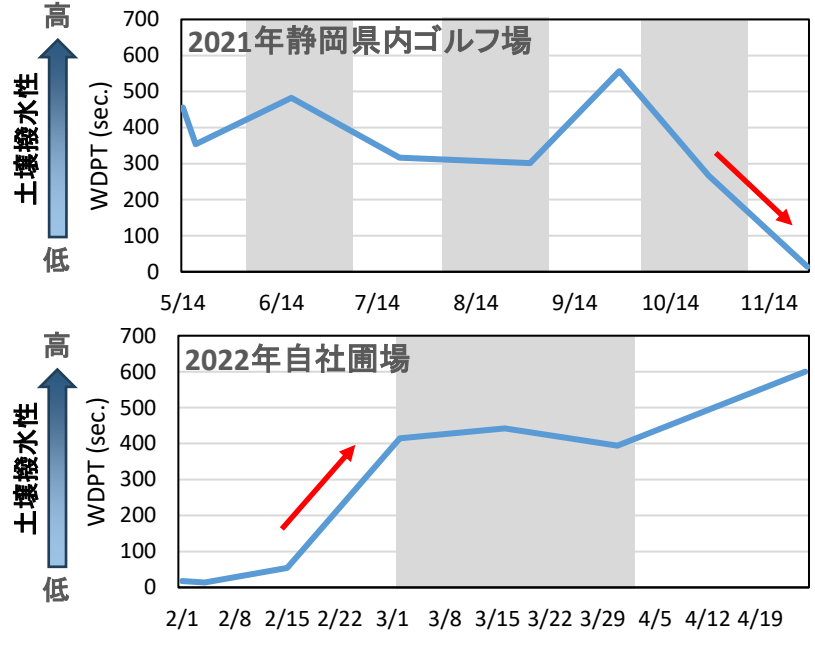
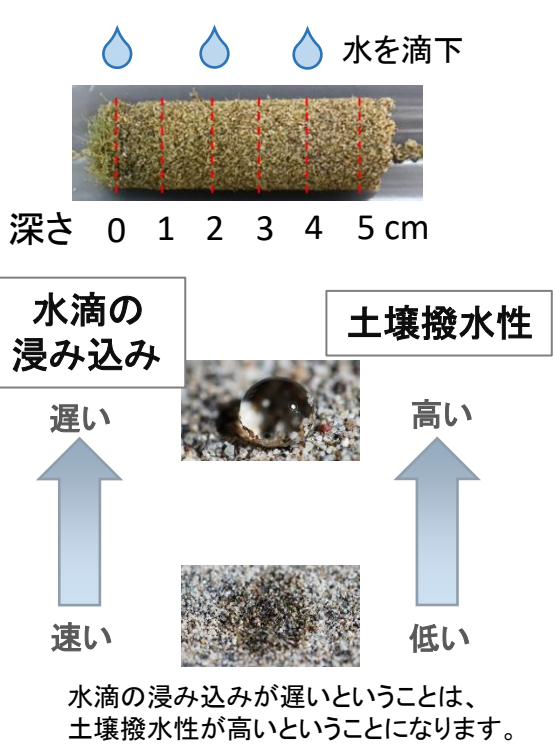
芝生管理のマメ知識 第193号

<秋・冬> 来春に向けた冬の水分管理

今回は、冬の管理が来春へ影響する可能性がある、水分管理についてです。
春の芝生生長期までに土壌を整え、春の良好な立ち上がりを目指しましょう。

■ 冬季の土壌撥水性

冬のベントグラスグリーンの土壌を抜き取り、2週間乾燥後、深さごとの水滴の浸み込み時間(WDPT)を調べました

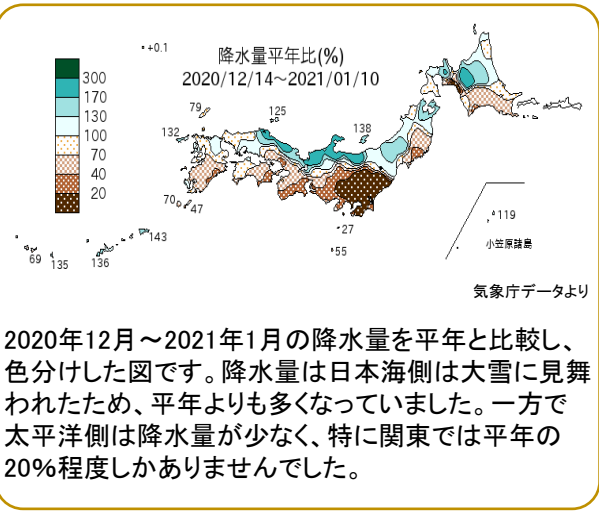
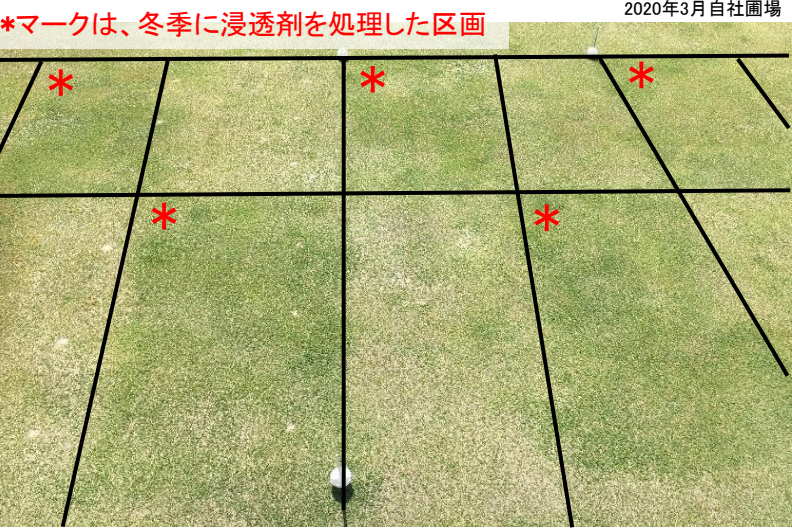


▲ 土壌撥水性の推移(深さ3 cmでの測定)
気温の高い3月～10月頃は撥水性が高く、気温の低い11月～2月では撥水性は大きく低下していることが分かります

今回の結果を見ると冬の土壌撥水性は低く、冬の水分管理は重要でないように思えますが...

■ 冬の少雨で乾燥したまま春を迎えてしまうと...

ベントグラス圃場の一部に対し、冬季に浸透剤を処理しました。



▲ 冬期も浸透剤を処理していた区は春先の生育が良くなっていました。
冬場にも浸透剤を処理することで、ベントグラスの立ち上がりが早くなることが分かります！

冬に土壌撥水性が低くても、春には再び撥水性が増していきます。春の立ち上がり時期に土壌撥水性が高いと、散水や施肥のムラが生じてしまい、生育が不揃いのままシーズンに突入してしまいます。
春の立ち上がり時期までに浸透剤を処理して土壌水分を安定させましょう！